

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年8月24日

氏名	中島 光司
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名 学年	京都大学 5年

はじめに、このような素晴らしい研修に参加させていただき、日米医学医療交流財団様には感謝を申し上げます。また、現地のスタッフたちの手厚いサポートのお陰で無事研修を終えることができました。実は、自分は、重度な食物アレルギーを持っているため、このプログラムに参加することも最初はためらうほどでした。そんな中、京都大学の小池教授が、今回のプログラムに受け入れてもらえるよう尽力していただき、また出発前にも何回も相談に乗ってくださったので、いくら感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。結果として非常によい経験をすることができました。

さて、自分にとって、今回のプログラムにおける最大の目標とは、「世界の中での日本の医学教育・医療」を自分の目で確かめるということでした。というのも、医療のグローバル化が進む中、日本の大学の医学部に通っていて学びとることだけでなく、世界の医学生たちが今何をやっているのかということを知ることが大事だと思ったからです。こればかりは、自分の目で見て、経験し、理解しないといけなく、非常に難しい目標だと感じていました。そして、まさにその目標をこの研修中に達成することができたと確信しております。

このプログラムで最も良かったと思うのは、ハワイ大学の医学生との問診トレーニングでした。これは、ハワイ大学生たちが、患者役をやってくださるので、問診を行い、その症例について別室に控える先生方に英語でプレゼンテーションを行うといったワークショップです。もちろん初日は全く歯が立ちません。予想通り、別室の先生たちには厳しいアドバイスをいただきました。求められているレベルの高さに衝撃を受け、研修期間中は毎晩のように、夜遅くまで同室の子たちと問診とプレゼンテーションの練習をしあつたのも今となっては良い思い出です。しかし、研修を終えてみると、プレゼンの型というものが、習得できたことを実感したので、非常に有意義だったと感じております。また、このワークショップは、向こうの医学生と話す絶好の機会でもありました。アメリカの現役医学生と日本でしゃべる機会など、めったにありません。あちらの大学でどのような授業が行われているか、そしてどのような勉強方法をしているか、今回のプログラムで初めて知ることができました。向こうの医学生のレベルの高さと自信のほどに刺激を受け、自分ももっと頑張らないといけないということを再確認できたという意味においても、良かったです。

次に、印象深かったのは、ハワイの病院見学でした。研修期間中は、**John A. Burns School of Medicine (JABSOM)** や **Kuakini Hospital** など現地の医療施設を見学できる時間がありました。日本の病院とシステムや手技など、同じ点もあれば、違う点もあり、非常に興味深かったです。また、アラモアナショッピングセンター近くで開業されている小林先生のクリニックを見学し、お話を伺う機会もありました。そこで、明かされた米国医療の光と闇の話は初めて聞くもので深く考えさせられるものがありました。

もちろん、適度に空き時間もあり、その時間を使って、仲間たちとショッピングをしたり、ビーチに行ったりすることもできました。もし、報告書を読んで、今研修に興味をもった方がいれば、ぜひ応募してみてください。絶対に満足する内容の研修だと思います。